

平成26 年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定内容

(公財) 日本植物調節剤研究協会

平成26年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成27年9月10日(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者35名、委託関係者26名ほか、計79名の参集を得て、除草剤20薬剤(87点)、及び生調

剤1薬剤(2点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

A. 除草剤 (1)小麦

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.AH-01 液 グルホシネートPナトリウム塩 11.5% [北興化学工業 *Meiji Seika ファルマ]	—								(作用性)
2.BCH-109 細粒 ジフルフェニカン0.2% フルフェナセト0.6% [バイエルクロップサイエンス]	実・継 (従来ど おり)	一年生雑草	土壌	播種後～ 小麦2葉期, イネ科雑草1葉期 まで	4kg～5kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・葉に白斑や黄化、褐変を生じる場合がある。 *SU抵抗性、ジントロアニリン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・ネズミムギに対する効果の確認
		カズノグサ							
		*抵抗性スズメノテッポウ							
3.MBH-075 乳 プロスルホカルブ46% リニユロン 11.5% [丸和バイオケミカル]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前, 雑草発生前	300～ 600mL 散布水量 25～100L	全土壌 (砂土を除く)	全域	・砂壤土では生育抑制を生じる場合がある。 ・少量散布(25～50L/10a)の場合は専用ノズルを使用する。 *SU抵抗性、ジントロアニリン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・年次変動の確認(北海道)
		カズノグサ					東北以南		
		*抵抗性スズメノテッポウ							
4.NC-360 フロアブル キザロホップエチル 7% [日産化学工業]	継								・効果、葉害の確認(耕起前, 周縁部)
5. NC-613 乳 エスプロカルブ 60% ジフルフェニカン 1.5% [日産化学工業]	実・継 (従来ど おり)	一年生雑草	茎葉兼 土壌	播種後～小麦2 葉期, 雑草発生 揃期まで	300～ 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・葉に白斑を生じる場合がある。 ・イヌカミヅレが多発する圃場では高薬量で使用する。 *SU抵抗性、ジントロアニリン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・小麦1～2葉期, 葉量200mL/10aでの効果, 葉害の確認(東北以南)
				播種後～小麦出 芽揃, 雑草発生 始まで	300～ 500mL 散布水量 100L		東北以南		
				小麦1～2葉期, 雑草発生始まで	300～ 400mL 散布水量 100L				
		*抵抗性スズメノテッポウ		播種後～小麦出 芽揃, スズメノテッポウ 発生始まで	300～ 500mL 散布水量 100L				
		カズノグサ		播種後～小麦出 芽揃, カズノグサ発生 始まで	400～ 500mL 散布水量 100L				

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
6. NC-613 細粒 エスプロカルブ 6% ジフルフェニカン 0.15% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前, 雑草発生前	3~4kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・葉に白斑を生じる 場合がある。 *SU抵抗性, ジニ トロアニリン抵抗 性, およびその複 合抵抗性に有効	・薬量3kg/10aでの一 年生雑草に対する除 草効果の確認(小麦 出芽直前~摘期)
				播種後~出芽摘 期, 雑草発生始 期まで	4~5kg				
		カズノコグサ	播種後出芽前, 雑草発生前	3~5kg					
		*抵抗性スズメ ノテッポウ							
7. NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種 前 雑草生育期(草 丈30cm以下)	200~ 500mL 散布水量 25~100L	全土壌	全域	・散布水量4~ 6L/10a, 25~ 50L/10aの場合は 専用ノズルを使用 する。 ・周辺作物に飛散 しないように注意す る。	・薬量500mL/10a, 散 布水量4~6L/10aで の年次変動の確認 (耕起前) ・薬量500mL/10a, 散 布水量5~6L/10aで の年次変動の確認 (周縁部)
					500mL 散布水量 4~6L				
				播種後出芽前 雑草生育期(草 丈30cm以下)	200~ 500mL 散布水量 25~100L				
				小麦生育期 雑草生育期(草 丈30cm以下) (圃場周縁)	200~ 500mL 散布水量 25~100L				
			500mL 散布水量 5~6L	東北以南					
		多年生イネ科雑 草(シバムギ, レッドトップ)	耕起前 雑草生育期(草 丈30cm以下)	200~ 500mL 散布水量 25~100L	北海道				
8. SL-1201フロアブル メトプロロン:42.1% [石原産業, *石原バイ オサイエンス]	実・継 (従来ど おり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前, 雑草発生前	300~ 400mL 散布水量 100L	全土壌(砂 土を除く)	全域	・薬量200mL/10aで の効果, 薬害の確認	
9. SYJ-100 乳 プロスルホカルブ 78.4% [シンジェンタ ジャパ ン]	実・継	一年生雑草	茎葉兼 土壌	播種後~ 小麦4葉期, 雑草発生始期ま で	400~ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・葉斑, 黄化, 縮葉 などの症状がみら れる場合がある。 ・北海道の小麦2~ 4葉期処理は初冬 播き栽培で使用す る。 ・東北以南の小麦2 ~4葉期処理は前 処理剤との体系で 使用する。 ・イヌカミソレ多発 圃場では高薬量で 使用する。 *SU抵抗性, ジニ トロアニリン抵抗 性, およびその複 合抵抗性に有効。	・カラスムギ, ネズミ ムギに対する効果の確 認 ・発生前処理におけ る400mL/10a処理で のヤエムグラに対す る効果の確認 ・抵抗性スズメノテ ッポウに対する効果 の年次変動の確認 ・問題雑草多発圃場 における体系処理で の効果の確認。 ・雑草2葉期での効果 の確認。 ・反復処理でのネズミ ムギに対する効果, 薬害の確認。
				播種後~小麦2 葉期, 雑草発生 始期まで	400~ 500mL 散布水量 50L		北海道		
		カズノコグサ	播種後~小麦2 葉期, カズノコグ サ発生始期まで	400~ 500mL 散布水量 100L	全域				
		*抵抗性スズメ ノテッポウ	播種後~ 小麦2葉期, スズメノテッポウ 発生始期まで		東北以南				
		ヤエムグラ	播種後出芽前, ヤエムグラ発生 前	500mL 散布水量 100L					
		小麦1~2葉期, ヤエムグラ発生 始期	400~ 500mL 散布水量 100L						

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意		
10.トリフルラリン 粒 トリフルラリン 2.5% [ダウ・ケミカル日本]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4～5kg	全土壌 (砂土を除く)	全域	・ツユクサ、カヤツリ グサ、キク、アブラ ナ科雑草を除く。 ・小麦生育期処理 は、播種後の土壌 処理剤との体系で 使用する。	・北海道での小麦1～ 3葉期(イネ科雑草1葉 期まで)の効果、葉害 の確認 ・体系処理でのカズノ コグサに対する効果 の確認	
		一年生イネ科雑 草		小麦生育期 雑草発生前						東北以南
		カズノコグサ		小麦生育期 中耕培土後 雑草発生前						

A.除草剤 (2)大麦

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意		
1.MBH-075 乳 プロスルホカルブ 46% リニュロン 11.5% [丸和バイオケミカル]	実 (従来ど おり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前, 雑草発生前	300～ 600mL 散布水量 25～100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・黄化、生育抑制を 生じる場合がある ・少水量散布(25～ 50L/10a)の場合は 専用ノズルを使用 する。		
2.NC-360 フロアブル キザロホップエチル 7.0% [日産化学工業]	継								・効果、葉害の確認 (耕起前, 周縁部)	
3.NC-613 細粒 エスプロカルブ 6%, ジフルフェニカン 0.15% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後～出芽前 期まで	3～5kg	全土壌(砂 土を除く)	東北以南	・葉に白斑を生じる 場合がある	・カズノコグサ, 抵抗 性スズメノテッポウに 対する効果の確認	
4. NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種 前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～ 500mL 散布水量 25～100	全土壌	全域	・散布水量4～ 6L/10a, 25～ 50L/10aの場合は 専用ノズルを使用 する。 ・周辺作物に飛散 しないように注意す る。	・薬量500mL/10a, 散 布水量4～6L/10aで の年次変動の確認 (耕起前) ・薬量500mL/10a, 散 布水量5～6L/10aで の年次変動の確認 (周縁部)	
				播種後出芽前 雑草生育期 (草 丈30cm以下)	200～ 500mL 散布水量 25～100L					
				大麦生育期 雑草生育期 (草丈30cm以下) (圃場周縁)	200～ 500mL 散布水量 25～100					
5.トリフルラリン 粒 トリフルラリン 2.5% [ダウ・ケミカル日本]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4～5kg	全土壌 (砂土を除く)	(全域)	・ツユクサ、カヤツリ グサ、キク、アブラ ナ科雑草を除く。 ・大麦生育期処理 は播種後の土壌処 理剤との体系で使 用する。	・体系処理でのカズノ コグサに対する効果 の確認	
		一年生イネ科雑 草		大麦生育期 雑草発生前						東北以南
		カズノコグサ		大麦生育期 中耕培土後雑草 発生前						

A.除草剤 (3)水稲刈跡

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. DBN2.5 粒 DBN:2.5% [アグロカネショウ]	—								(作用性)
2. NH-007フロアブル ピラフルフェンエチル: 0.16% グリホサートイソプロピ ルアミン塩:30% [日本農薬]	実・継	一年生雑草	茎葉	水稲刈取後, 雑 草生育期(草丈 30cm以下)	400～ 600mL 散布水量 100L	全土壌	全域	・オモダカに対して 翌年の発生低減効 果が劣る。	・草種別の多年生雑 草に対する翌年の発 生低減効果の確認
		多年生雑草			500～ 2000mL 散布水量 100L				
		セリ(翌年発生防 止効果)			水稲刈取後, 雑 草生育期(草丈 30cm以下)				
3. SBH-207 (旧NHS-50) 粒 塩素酸ナトリウム:50% [エス・ディー・エス バ イオテック]	実・継 (従来ど おり)	一年生雑草, 多 年生イネ科雑 草, マツバイ	土壌	水稲刈取後 雑草生育期	20～25kg	全土壌	東北以南		・多年生イネ科雑草 に対する薬量と効果 の確認 ・20kg/10a処理での オモダカに対する当 年の効果, および翌 年の発生量低減効果 の確認 ・20～40kg/10aでの マツバイに対する翌 年の発生低減効果の 確認
		オモダカ (翌年発生低減 効果)		水稲刈取後10日 以内, 雑草生育 期	30～40kg				
4. YF-65L 液 ジクワット:7.0% パラコート:5.0% [シンジェンタジャパ ン]	継								・雑草イネに対する密 度抑制効果の確認

A.除草剤 (4)水田畦畔

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. SBH-207 粒 塩素酸ナトリウム 塩:50% [エス・ディー・エス バ イオテック]	継								・効果, 薬害の確認

B.生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. BAW-0907 液 クロルメコート 65.8% [BASFジャパン]	実 (従来ど おり)	秋播き小麦 節間伸長抑制に よる倒伏軽減	茎葉	幼穂形成期	150～ 200mL 散布水量 100L	全土壌	北海道		
				出穂前20～10日 (草丈40～60cm)	200～ 300mL 散布水量 100L				